

国際事業

国際事業展開

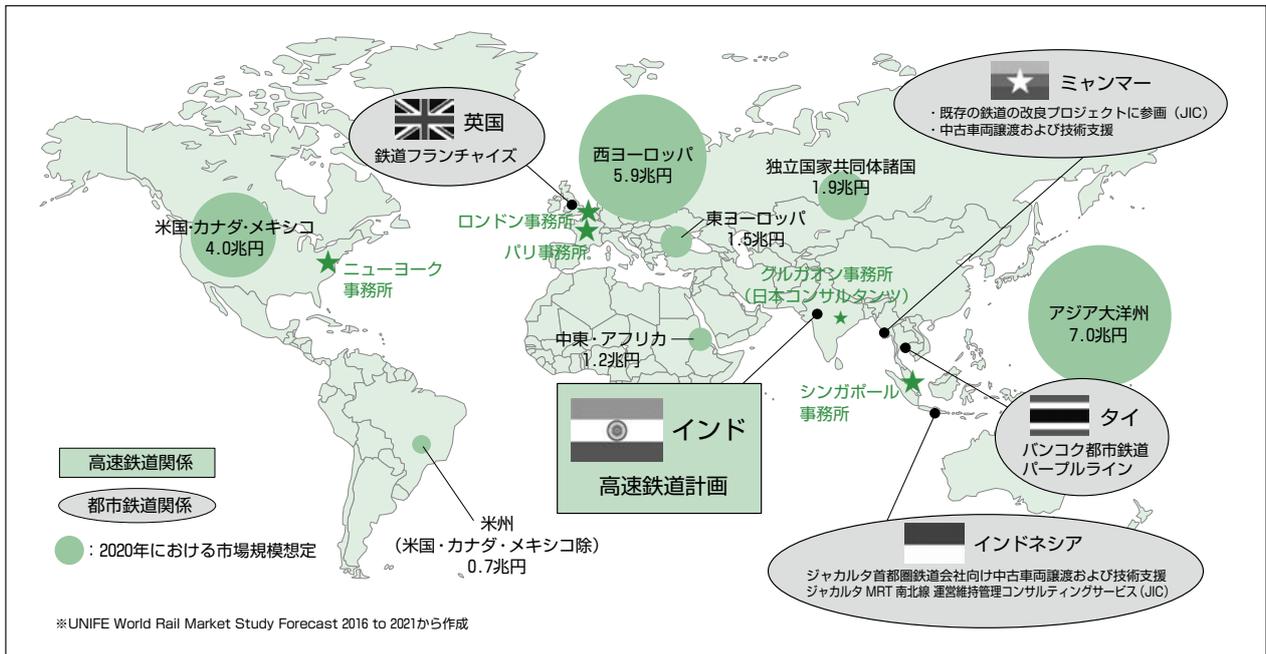
国際事業

当社は、2018年にJR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」を策定し、その中で「世界を舞台に国際事業のビジネスモデルを確立し、アジアを中心により豊かなライフスタイルの提供を目指す」と掲げています。

国際事業本部は2017年6月に本社内に新設され、当社の持つ経験や技術・ノウハウ等を活かして、将来の成長に向けての新たな事業領域へ挑戦していきます。具体的には、海外プロジェクトを通じ、JR東日本グループの人材を育成し、その過

程で得た知見・技術力等を国内へ還元していきます。また、日本の鉄道規格の普及に努めるとともに、鉄道事業のみならず生活サービス事業も含めた総合力で、JR東日本グループの高品質・高効率な鉄道インフラシステムを展開できる国際事業のビジネスモデルを構築していきます。さらに、いずれのプロジェクトにおいても、リスクとリターンをコントロールしつつ、長期的な黒字化を目指し、持続可能な事業運営に努めていきます。

海外鉄道プロジェクトおよび主な海外事務所所在地



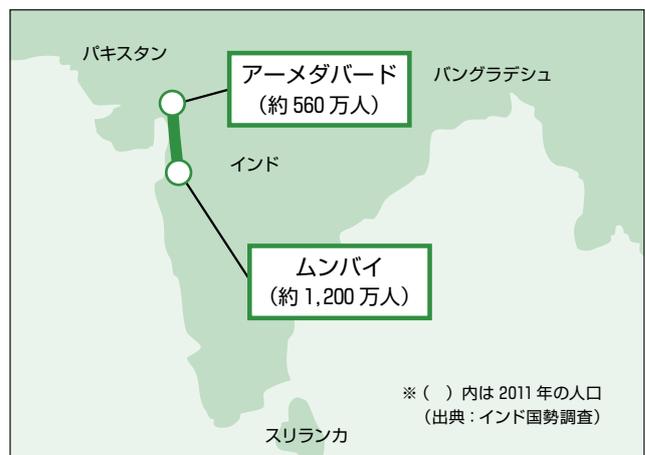
国際事業

インド高速鉄道プロジェクトの推進

インド政府が発表した高速鉄道7路線のうちムンバイ・アーメダバード路線について、2015年12月「高速鉄道に関する日本国政府とインド共和国政府との間の協力覚書」が締結され、ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道計画で日本の新幹線方式が採用されることとなりました。2016年11月の日印政府間協議においては、高速鉄道計画のプログレスレポートが発表され、2018年着工、2023年開業のスケジュールが示されました。当社は、官民一体となった協力の中で、新幹線のオペレーターとしての豊富な経験から技術的支援を実施しています。

2016年3月に、当社のグループ会社である日本コンサルタンツ(株)が、高速鉄道の技術基準策定に関するコンサルティングである「インド国高速鉄道に係る制度整備支援プロジェクト」をJICAより受注し、当社もインド高速鉄道プロジェクト担当の役員を設置するなど、社内体制の強化を行いました。

2016年12月には、ムンバイ・アーメダバード間の高速鉄道建設事業のための設計および入札図書(案)の作成と入札支援を行う「インド国高速鉄道建設事業詳細設計調査」を日本コンサルタンツ(株)、日本工営(株)、オリエンタルコンサルタンツグローバル(株)の3社による共同事業体(JV)がJICAより受注し、現在、業



務を実施中です。2017年9月14日には、日印首脳会談に合わせてアーメダバード(サバルマティ)にて本高速鉄道事業に係る起工式典が開催され、今後、2023年の開業を目指して建設工事が本格的に進められていく予定です。また、今後は現地人材の育成など、オペレーション準備の支援にも力を入れていきます。

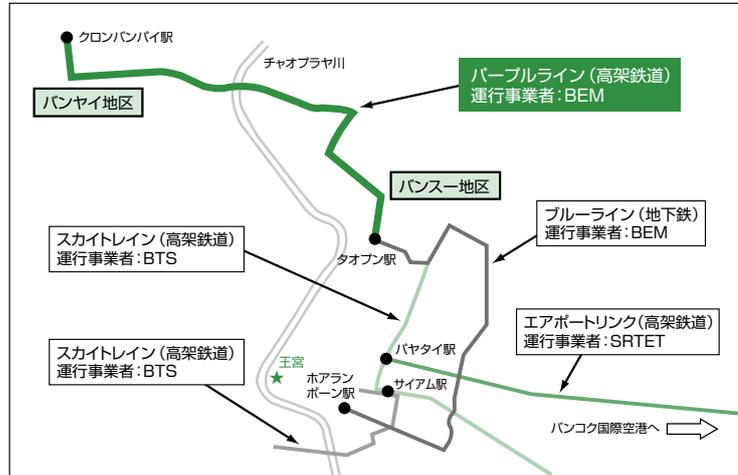
■ タイ・バンコクパープルラインへの事業参画

当社は、タイ・バンコクの都市鉄道路線であるパープルラインにおいて、鉄道車両や地上設備についてメンテナンスを行う事業へ参画しています。パープルラインは、タイの首都バンコク北部パンスー地区と北西郊外のバンヤイ地区を結ぶ鉄道路線であり、2016年8月に営業を開始しました。当社は、丸紅(株)、(株)東芝

との共同出資により2013年12月にメンテナンス会社であるJapan Transportation Technology (Thailand) Co., Ltd.をバンコクに設立し、10年間のメンテナンス業務を実施しています。また、(株)総合車両製作所がステンレス製車両全21編成63両を製造し、納入しました。



走行するパープルライン車両



○バンコク都市鉄道 路線略図

■ 英国での鉄道オペレーション事業への参画

英国の鉄道運営では、旅客輸送部門とインフラ管理部門を分離する「上下分離制」が導入されており、旅客輸送部門は約20の列車運行会社に分割されています。それぞれの列車運行会社は英国運輸省が実施する入札審査を経て、7～10年程度の運営権を獲得します。

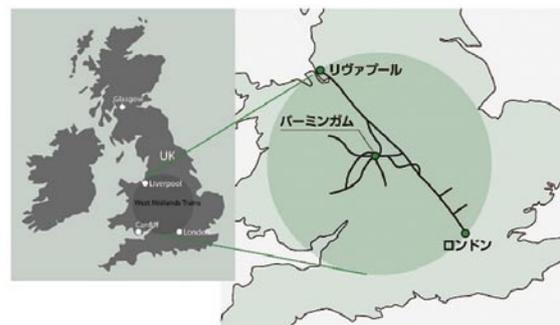
2017年8月、当社は三井物産(株)・オランダ鉄道系のアベリオUK社と協同してウェストミッドランズ事業の運営権を獲得し、同年12月より運営を開始しました。本事業は当社が海外鉄道事業の運営・鉄道オペレーション事業に携わる第一号の

案件で、ロンドンへの通勤路線、ロンドンからイングランド北西部の都市リヴァプールまでをつなぐ長距離路線およびイングランド中西部にある英国第2の都市バーミンガムの都市圏輸送を担っています。

現在、新車両の導入による輸送力増強やロンドン・バーミンガム周辺の通勤混雑緩和、お客さまへの情報提供や輸送安定性の強化をはじめとするサービス品質向上等の実現に向け取り組んでいます。



ウェストミッドランズ事業開始後の運行列車



ウェストミッドランズ事業の営業エリア

■ 海外鉄道事業者への技術支援

インドネシア共和国の首都ジャカルタでは交通渋滞が激しく、公共交通機関の整備が進められています。既存の鉄道においても、早急な輸送力の増強が求められていることから、当社は2013年からの3年間、都市鉄道の運行を担うインドネシア通勤鉄道会社に対して、埼京線等で使用してきた205系車両476両を譲渡してきました。2018年からは新たに武蔵野線で使用してきた205系の譲渡を開始し、今後2020年までに336両を譲渡する予定です。また2014年3月には協力覚書も締結し、さまざまな協力も実施しています。譲渡した車両が現地で安定

的に運行できるよう車両のメンテナンスに関わる支援を実施してきたほか、乗務員による車両の点検・整備に関する支援やサービス向上を目的としたセミナーも実施をしています。

ミャンマー連邦共和国においては、2007年より同国の旅客列車の運行や貨物輸送を行っているミャンマー鉄道公社に車両を譲渡しています。2015年には、東北地区・新潟地区で使用してきた気動車19両（キハ40形、キハ48形）を譲渡したほか、車両のメンテナンスに関する技術支援も実施しています。



インドネシア通勤鉄道会社に譲渡後、
現地で活躍している 205 系車両



サービス向上セミナー



ミャンマーに譲渡した気動車

■ 当社が加盟する国際機関

当社は、加盟する国際鉄道連合 (UIC) や国際公共交通連合 (UITP)、欧州鉄道会社共同体 (CER)、米国鉄道協会 (AAR)、米国公共輸送協会 (APTA) 等の鉄道国際機関が主催する国際会議を通じて、積極的に情報収集・発信を行っています。

UITPでは富田会長が2018年4月よりアジア太平洋地域理事としてUITP本部理事会に出席しており、また、UITPでは、小縣副会長が2015年6月から2017年5月まで会長、2017年5月から

2019年6月までアジア太平洋地域会長を務め、現在は名誉会長として、貢献をしています。今後も当社は国際機関と連携し、世界の鉄道・公共交通の発展、ならびにこれらに関するさまざまな課題の解決に積極的に取り組んでいきます。

また、海外の鉄道関係者に日本の鉄道システムの特長をアピールするため、海外における展示会、セミナー等への出展や国際会議の招致にも取り組んでいます。



2019年6月
UITP グローバル公共交通サミット
(ストックホルム)



2018年3月
UITP アジア太平洋地域総会
(台湾)



2017年11月
UITP アジア太平洋地域総会
(東京)